

平成 25 年 12 月 25 日

事業概要の補足資料

日本ガス株式会社

1. 日本ガス株式会社について

- ・当社は鹿児島市に本社を置き、鹿児島市を供給区域とする都市ガス事業者です。平成 23 年度の統計では需要家件数順で 18 位(約 15 万件)、販売量順で 26 位(約 1 億 m³)の事業規模となっています。
- ・南九州唯一の LNG 基地を保有している都市ガス事業者であり、南九州の都市ガス事業者及び産業用ユーザー様向けに 5 万 5 千トン/年の LNG をローリーにて供給しています。

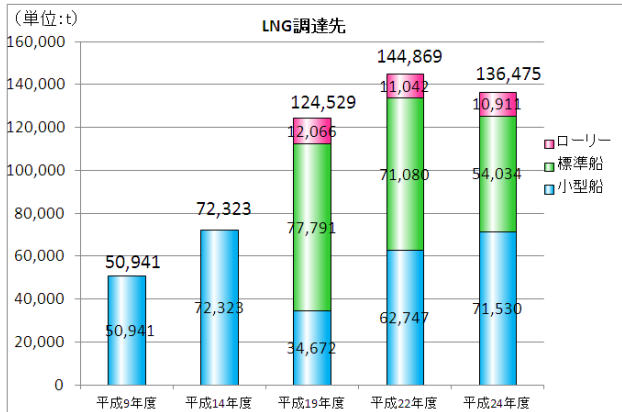
※都市ガス事業者としては同名で東京都に本社を置く「日本ガス株式会社」があります。第 2 回ガスシステム改革小委員会の資料に出ておりました日本ガスは、東京都にあります日本ガスで、当社とは無関係の別会社です。



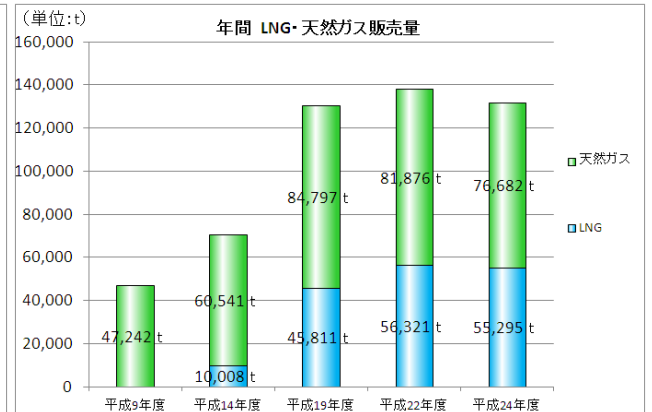
2. 基地建設に至った経緯

- ・昭和 55 年 12 月の「石油代替エネルギー導入指針」の提言を受け、全国的に LNG 化が促進されるなか、当社も LNG 導入について検討を開始しました。当時、九州の中部や南部には LNG 基地が無く、北部の LNG 基地から鹿児島までの陸路輸送では 300km を超え、輸送コストと供給リスクが高くなると判断したため、南九州で初となる LNG 受入基地建設を決断しました。
- ・平成 8 年より大阪ガス様のサポートにより広島ガス様と共同でインドネシアより小型船による LNG 受入を開始し、南九州地域の LNG の普及拡大に努めてきました。
- ・原油価格や為替の乱高下、エネルギー需給の動向に当社の原料調達が翻弄される中、調達先の多様化及び供給安定性の観点から、標準船の導入を決断し、第二貯槽の建設、バースの改築を行うなどして、平成 18 年より大阪ガス様との標準船二港揚げによるオーストラリア産 LNG の受入を開始しました。
- ・小型 LNG 船受入基地の建設にあたり、約 138 億円の設備投資を行い、さらに標準船二港揚げ対応、加えて鹿児島隼人中圧幹線の整備のため、合計約 100 億円の設備投資を行うなど、当社の事業規模では大きなリスクを負って、南九州の LNG 普及拡大に努めて参りました。

3. LNG の調達先と販売内訳



・H8 年に小型船による LNG 受入を開始し、H18 年より小型船に加えて、標準船およびローリーによる LNG 受入を行うなど、原料調達の多様化に努めています。



・H14 年より周辺の都市ガス事業者様向けにローリーによる LNG 供給を開始して以来、LNG 供給は順調に伸びており、H24 年度実績では LNG 販売が年間の LNG 取扱量の 42%を占めるなど、積極的な LNG 販売を行っております。

4. 総合エネルギー企業に向けてのアプローチ

①太陽光発電

	H24 年度実績	H25 年度見込み
自社設置の太陽光発電設備	999kW	308kW
太陽光パネル販売	1,971kW	9,811kW

②バイオガス

清掃工場や污水处理場の生ゴミや下水汚泥をソースとするバイオガスの都市ガス原料化について、鹿児島市と協議を進めております。また、家畜糞尿をソースとするバイオガスの生成について鹿児島県および鹿児島大学と共同で研究を進めています。

以上